

区民のアイデアで未来に向けた練馬の発展に取り組む、
練馬区「地域おこしプロジェクト」実施事業

からみ と つらなり

参加
無料

「みんな」のワークショップシリーズ

子どもから大人まで参加できるワークショップ形式のゆるい学びの場「みんなの“がっこ”」と、
ちょっと大人向けの講座「ママの“がっこ”」を開催します。

共通するテーマは「みんな」「集団」。家族も、保育園も、学校も、会社も、町も、
私たちの生活にひとは欠かせません。ひとが集まって、ひとと一緒にやることから感じることや、
得るものを探り、さまざまなひとがいる社会を体感したり考えるきっかけづくりをします。

会場：小竹町会館（東京都練馬区小竹町 1-77-10）

2018年4月22日（日）

2018年4月28日（土）

ちょっと
大人向け

ママの“がっこ”

講演

10:00-12:00
「生活支援と集団のちから」
せんせ：川口淳一さん（作業療法士）
〔定員 50名〕

みんなの“がっこ”

ワーク
ショップ

10:30-12:00
「シアターゲーム」
せんせ：柏木陽さん（演劇家）
〔定員：30名／対象：5才以上ならどなたでも〕

みんなの“がっこ”

ワーク
ショップ

13:30-15:00
「異なるレイヤーへのダイブ！」
せんせ：砂連尾理さん（ダンサー）
〔定員：30名／対象：5才以上ならどなたでも〕

みんなの“がっこ”

ワーク
ショップ

13:30-15:00
「音のコミュニケーション」
せんせ：片岡祐介さん（音楽家）
〔定員：30名／対象：4才以上ならどなたでも〕
※もっと小さなお子さん連れもご相談ください

講演 「生活支援と集団のちから」

ちょっと大人向け

10:00-12:00 [定員:50名]

誰かの役に立つ、遊ぶ、つながる。

ひとの生活にとってこれらは決して失ってははいけません。しかしこれらはどれも「ひとり」では得ることのできない体験です。ひとが生活していく上で、ひとの存在はなくてはならないものです。「集団」をひとつの道具としてもちいることで、そのひとの暮らしがワクワクする場面を引き寄せることがあります。ここでは、「集団」にアプローチしたいいくつかの話を通して、「みんな」がいることで私たちの生活が楽しいものになっていることを思い描いていただけたらと思っています。作業療法士「せんせ」のお話ですが、私たちの暮らしの周りにある「みんな」「集団」に応用がきくものです。どなたでも、もちろん「ままだ」だけでなく、「ばば」も「ぼく」「わたし」も参加できます。

せんせ：川口淳一さん（作業療法士）

作業療法士。長崎大学医療技術短期大学卒。その後長崎市内の病院に勤務後、介護老人保健施設ふらの（北海道）へ赴任。副施設長として勤務する。2008年より結城病院（茨城県）に赴任し、急性期から地域リハビリテーションまでの作業療法に従事。現在、結城病院リハビリテーション部作業療法科科長。学生時代より演劇を用いた学習障害児のコミュニケーション活動やワークショップ、高齢者施設での演劇裏方活動など実施。著書に、「演劇リハビリテーションの模索」（ダブルフェイス 2000）、「リハビリテーションの不思議～聴こえてくる高齢者のこえ～」（青海社 2006）がある。



ワークショップ 「異なるレイヤーへのダイブ！」

13:30-15:00 [定員:30名/対象:5才以上ならどなたでも]

見る、触れる、聞く。普段なにげなくしている行動を見つめ直してみるワークを行います。角度を変えてみたり、しつこく触ったり、じっくり聞いてみることを通じて、そこにある物や関係や時間の違った側面に飛び込んでみます。日頃当たり前のようにふれている物事をとらえ直してみる思考を育むワークショップです。

まず、ゆっくりとストレッチをしながら、日頃何気なく動かしている身体に意識を向けます。そこから二人でのワークや、グループワークに展開していきます。音楽に合わせて踊りましょう！というものではありません。

せんせ：砂連尾理さん（ダンサー）

91年、寺田みさことダンスユニットを結成。02年、「TOYOTA CHOREOGRAPHY AWARD 2002」にて、「次代を担う振付家賞」（グランプリ）、「オーディエンス賞」をW受賞。近年はソロ活動を中心に、ドイツの障がい者劇団ティクバとの「Thikwa/Junkan Project」、京都・舞鶴の高齢者との「とつとつダンス」、宮城・関上（ゆりあげ）の避難所生活者への取材が契機となった「猿とモルタル」等を発表。著書に「老人ホームで生まれた「とつとつダンス」—ダンスのような、介護のような—」（晶文社）。



ワークショップ 「シアターゲーム」

10:30-12:00 [定員:30名/対象:5才以上ならどなたでも]

俳優のトレーニングに使われるシアターゲームと呼ばれる、演劇スキルをゲーム感覚でやしなうワークを行います。注意力や観察やコミュニケーションなど日常生活や業務の中で使っている要素に、ゲームを通じてあらためて意識を向けてみることで生まれる変化を楽しみながら体感します。

名前を交換したり、相手が指で描いた線通りに動いたり、といった二人一組のワークや、グループになってのワークなど、言葉や身体などいろいろなコミュニケーション手段を使ったワークショップです。

せんせ：柏木陽さん（演劇家）

演劇百貨店代表/演劇家。劇作家・演出家の如月小春とともに活動し、アジア女性演劇会議事務局、兵庫県立こどもの館の野外移動劇ワークショップなど新たな演劇の可能性を探る現場に関わる。03年、特定非営利活動法人演劇百貨店を設立し、代表理事に就任。現在もワークショップの進行役として、全国各地の劇場・児童館・美術館・学校で、子どもたちと独自の演劇空間を作り出している。青山学院女子短期大学、大月短期大学、和光大学で非常勤講師を務める。平成29年度「演劇教育賞」（日本演劇教育連盟）を受賞。



ワークショップ 「音のコミュニケーション」

13:30-15:00 [定員:30名/対象:4才以上ならどなたでも]

もっと小さなお子さん連れもご相談ください

体や物を使って音を出して遊びます。音を聞く/発するワークを通じてコミュニケーションとしての音について、感じて考えましょう。楽器などの音楽経験はいっさい不要です。

楽器がなければ音楽ができないと思いませんか？私たちの周りにも音はあふれているし、簡単に音を出すことができます。そんな音に対する気づきから、だんだんと周囲とのコミュニケーションに発展していくワークショップです。

せんせ：片岡祐介さん（音楽家）

子どもの頃から作曲や即興演奏に興味を持ち、木琴やピアノの演奏を自己流で始め、東京音楽大学で打楽器を学ぶ。映画や商業音楽での経験を積んだ後、97年から2000年まで、岐阜県音楽療法研究所にて研究員として勤務し、障害児者との演奏共演を多数行う。マリンバのソロコンサートなど、ジャンルに拘らない演奏活動の他、音楽療法士のための実践的な講座や、幼児から高齢者まで幅広い人を対象に即興演奏のワークショップも行っている。おとぼけキャラで、おどろ好き。



申込み方法

当日の飛び入り参加も受け付けますが、定員がありますので、事前にお申し込みいただくことをおすすめします。

講演のみの参加も受け付けますし、ワークショップも全回参加でも単発参加でもけっこうです。また、ワークショップの“せんせ”たちは、参加される方々の様子に合わせる臨機応変さを持った方々です。年令も、言葉も、身体の状態も、経験・未経験も気にせず、お気軽にご参加ください。



メール

hello@npo-manabinokai.com

件名を「ワークショップ申込み」とご記入の上、お名前・連絡先・参加人数・参加希望ワークショップ名を記載して送信してください。



申し込みサイト

「こくちーず」



会場案内

小竹町会館 東京都練馬区小竹町 1-7-10



お問い合わせ

NPO 法人障がい児・者の学びを保障する会
080-3529-6343 (大森)

NPO 法人

障がい児・者の学びを保障する会

わたしたちは、さまざまな学びの機会づくりを通して、誰もが個々の発達と学習ニーズに合わせて学べる教育の普及と、多様な人のかかわりの中で豊かな選択肢を持ち、自分らしく生きていける地域社会の実現を目指しています。

https://www.npo-manabinokai.com/